

parasagittal 7 (5), sphenoid-ridge 6 (1), olfactory groove 3 (1), lateral ventricle 2 (0), cerebellar convexity 1 (1), tuberculum sellae 1 (0) であった。非手術39 (68.4%) 例の理由は、腫瘍が小さいため17 (43.6%), 高齢のため12 (30.8%), 他疾患を合併しているため8 (20.5%), 手術を希望しないため5 (12.8%), その他6 (15.4%) であった。手術が施行された18例のうち、術後に、anosmia (olfactory groove m.) が1例に、外転神経麻痺 (clinoidal m.) が1例に認められた。

髄膜腫は極めて緩徐に発育する良性腫瘍であり、無症候性で発見された場合の手術適応は、種々の条件を考慮して、慎重に決定されるべきと考える。

O-19) 聴神経腫瘍小腫瘍例に対する中頭蓋窩法による摘出術の治療成績

安藤 肇史・斎藤伸二郎 (山形大学脳神経外科)
黒木 亮・中井 昂 (同 外科)
青柳 優 (同 耳鼻咽喉科)

中頭蓋窩法による小さな聴神経腫瘍摘出術の治療成績について報告する。

対象は後頭蓋窩への進展が 10 mm 未満の11例 (男性6例, 女性5例, 平均48歳). 全例顔面神経麻痺なし, 聴力は4分法聴力レベル 50 dB 未満かつ語音弁別能50%以上が9例. 50 dB 以上, 50%未満が2例. 内耳道のみを開放し腫瘍を摘出した. Follow-up 期間は平均28カ月. 手術成績: 顔面神経機能は10例で温存 (House & Brackmann の Grade I 5例, II 3例, III 2例). 聴力は 50 dB 未満, 50%以上の9例中, 6例で温存. 合併症は術側の動眼神経麻痺と創感染が各1例. 髄液漏はなかった。

本法の有用性, 問題点についても言及する。

O-20) 脳内出血で発症した PNET の1例

松本 乾児・藤森 清 (市立酒田病院 脳神経外科)
奥平 欣伸

症例は10歳の男児で, 突然の意識障害にて発症した. CT 上左前頭葉に腫瘍内出血と思われる塊状血腫を認め, 緊急血腫除去術の後, 左前頭葉切除を含む腫瘍全摘術を施行した. 腫瘍は灰白色軟で境界は比較的明瞭であった. 病理学的には小型で N/C 比の高い卵円~細長い核を持つ腫瘍細胞が密に増殖し, 明瞭なロゼット形成はなかつ

た. 免疫組織化学的には多くの腫瘍細胞が GFAP 陽性である一方, NF 陽性細胞も散見され, また電顕的に細胞質内に dense core vesicle や少数の clear vesicle を認めるなど, glia および neuron 双方への分化傾向を示す所見が得られた. PNET の概念は1973年に Hart and Earle により提唱されたが, 後に病理学的に様々な variation を含んだ幅広い概念として定着してきている. 本症例は, 1983年 Rorke らの報告による PNET with bipotential differentiation に相当するものと思われたのでここに報告した。

O-21) 成人大脳半球に発生した Primitive glioma と考えられた1例

佐々木 庸・西谷 幹雄 (函館脳神経外科)
戸島 雅彦・北條 敦史 (病院脳神経外科)
岡 亨治・伊東 民雄 (中村記念病院 脳神経外科)
末松 克美・中村 順一

未分化型脳腫瘍の定義, 分類に関しては現在も様々な議論がなされており, その発生機序も不明な点が多い. 今回我々は, 成人大脳半球に発生した未分化型脳腫瘍を経験したので, その免疫組織学的所見を中心に考察を加え報告する。

症例は, 24歳男性. CT, MRI にて左頭頂葉皮質下に ring enhanced mass を認め, 摘出術を施行した. 摘出標本の H-E 染色は未分化で幼若な円形の細胞が主体をなし, それらの細胞は NFP, synaptophysin, NSE 染色では陰性だが, GFAP 染色にて一部陽性を示した. これらの所見から, 本腫瘍は PNET から一步 glia 系に分化した段階の腫瘍と考えられ, Inoue らの提唱する primitive glioma に相当するものと考えた。

O-22) 成長障害で発症した小児 Cushing 病の1手術治験例

藤原 和則・池田 秀敏 (東北大学 脳神経外科)
吉本 高志

【はじめに】小児 Cushing 病の報告は極めて稀である. 我々は, 成長障害と肥満で発症した, 小児 Cushing 病の1手術治験例を経験したので報告する。

【症例】13歳, 男児. 7歳より肥満傾向, 10歳より成長障害が出現 (<2SD). 13歳で血中 Cortisol の高値を指摘され, 諸検査にて Cushing 病と診断された. 当科入院時, 身長 128 cm, 体重 41 kg. 尚, 血中 GH および Somatomedin-C 値は正常で, PRL, FSH お